



人間牧場主・年輪塾々長  
若松 進一

## 学習を実践と交流に

金物屋、ガソリンスタンド、居酒屋、自動車修理工場、酒屋、食堂、自転車屋、洋服店、散髪屋、駄菓子屋。これは私が住んでいる双海町で、市町村合併後この十年間に廃業したお店の数々です。廃業の理由は色々あるでしょうが何と云っても一番は、便利さゆえに客足が遠のき、商売で飯が食えなくなったからです。町を何とか元気にしようと、この五十年間みんなが必死になつて知恵と汗を出してきた結果がこうですから、私たちのダメージは相当なもので、もう立ち上がれないほど落ち込んでいるのに、行政は「地域の活性化は住民の手で」と、相変わらず何の方策も示さず資金も出さぬまま、これでもかと叱咤激励しているのです。

地方に住んで思うことですが、都会の反対語の地方は自然が豊かで人情が厚いというけれど、都会に比べると暮らしのどの部面においても比較にならないほど

劣っていて、特に平成の大合併以降は都会と地方の格差は益々広がり、地方の過疎化や高齢化、少子化、産業不振は顕著で、自然災害や有害鳥獣の被害がさらに追い討ちをかけ、このままだと地方は潰れるのではないかとという危機感すら感じるのです。

「そんな住みにくい地方に何故住むの?」「嫌だったら離れば」と言われそうですが、住めば都の例えどおり、多少の不安を感じつつブツブツ言いながらも、地域住民は長年住みなれた自分の住んでいる町を愛し、これからも住み続け



人間牧場には大勢の人が学習と知恵を求めてやって来る

ようとしていきます。ゆえに何とかしたいと思うのは当然で、時には視察研修と称して先進地に向向き、また講師を招いて学習会を開いて悪戦苦闘していますが、外から見ればまるで悪あがきのようにも見えます。

私の所へは地域学習や交流の拠点となる私設公民館「縁会所」や「人間牧場」を持つていることから、連日大勢のそんな人たちが研修目的でやって来ます。中には遠く北海道や東京からもやって来ますが、やはり同じ悩みを持ち何とか解決の糸口をつかみたいと思っている、田舎の人が圧倒的に多いようです。皆さんはこちらが驚くほどよく学習をします。中には成功談もさることながら失敗談を聞き出す人もいて、様々なプレッシャーをはねのけた話には、話す私も聞く人も思わず熱が込めるのです。しかし残念なことにその殆どは学習の域を越えず、学びを実践と交流に結びつける人は意外と少なく、研修後は近くにある道後温泉のお湯に流して一件落着となるのも事実です。

私は「学習と実践の伴わない地域づくりは長続きしないし、交流による成果も得られにくい」と常々言っています。経済効果を追求して一時的に成果を得ても、「何のために」「何を」「どうしたい」という目的を持った学習を、まるでエン

ドレステープのように継続してしっかりと行なわなければ、持続可能な地域づくりはできないと思うのです。私設公民館煙草会所を場としたまちづくり青年会議の学習が、夕日によるまちづくりを産み、廃屋利用の十年間で四十回のフロンティア塾学習が無入島キャンプや丸木舟瀬戸内海航海を産み、人間牧場での学習が年輪塾や子ども体験塾を産み、学習の中で育まれたスキルアップは実践と交流に発展し大きな成果を得ていますが、常に学びの心を持つていけば、いつかはネットワークの中心的存在になるのです。そんな地道な活動を身近な場所で行っている三人のを紹介しします。

人口千百人ほどの小さな高知県馬路村役場に勤める公務員ならぬ自称好夢員のKさんは、若い頃から向学心の強い人で、暇さえあれば全国各地に出かけ様々な学習に参加し、多くの人に出会っています。最初は学んだことをノートや手甲にメモしていましたが、今は忘れないよう閃いたヒントを自分の携帯にメールで送り、実践に活かしています。スクラッチ名刺のアイディアも、近自然工法による安田川の改修も、無農薬栽培米の耕作も、ウマジックと称した玄人はだしのマジックも、馬路温泉利用の化粧水販売も、全て学習で得たアイディアを実践

に移し、馬路村の地域づくりに役立て大きな成果を得ています。

人口百六十人ほどの大洲市柳沢田地区に住むKさんは、自宅横の牛舎で十六頭の乳牛を飼う酪農家ならぬ自称楽農家です。彼は忙しい仕事をしながら地域づくり人として各地の学習に参加し、ほたるでは県内唯一の天然記念物に指定されている矢落川のホタルの保護活動に取り組み、試行錯誤の末ホタルの発生が始まる5月〜6月にかけて、ホタルの発生状況を毎日ネットで配信したり、JRと提携してホテル見学ツアーやほたる祭りを開催して、交流人口の増加に汗を流しています。廃校になった田処小学校の体育館を使った大杉年輪塾では毎年公開セミナーを行なっており、百人を超える人を集め地域を巻き込んでいます。

伊予市役所に勤めるMさんは、若い頃三年間えひめ地域政策研究センターへ出向して研究員をした経験を活かし、双海町や伊予市街地の活性化に取り組んでいます。年輪塾では小番頭、えひめ地域づくり研究会では事務局長を務め、様々なネットワークの要として活躍し、県下はもとより全国に人と情報のネットワークを広げ、暇さえあれば日常的学習に余念がなく、まちづくり学校双海人などで地域住民を巻き込み、ゼロ予算でも新し

い事業を企画実践して大きな成果を上げています。骨身を惜しまず地域のことは地域に学ぼうと、小さな集落をくまなく回って住民と対話をする手法は、地域学習の見本のようなものです。

彼ら三人の共通点は田舎を嘆かず諦めずポジティブに考え、常に十年後の未来を見据えて学習を怠らず人間力を高めていることです。また沢山の仲間をつくり、いいことは直ぐにやる、悪いことは直ぐに止める実践力と、地域力をワンランクアップさせる熱意は、やがて大きな成果となることでしょう。馬路村も大洲市田処も双海町も、この十年間で定住人口は減ったものの、交流人口は確実に増大し、全国に向けて様々な情報発信をし続けているようで、彼ら三人に大きな拍手を送ります。

「学ばねば 先が見えない まちづくり  
暇さえあれば 寝ても冷めても」  
「学習を したことに元々 実践し ワ  
ンランクでも 上げる熱意を」  
「十年は あつという間に 過ぎて行  
く 振り子じゃ駄目だ はずみ車に」  
「力には 人間力に 地域力 実践力  
と 色々ありて」  
(若松達一 笑売啖呵より)